第４回大河原地域における高校のあり方検討会議　会議録

日　　時　　平成２８年７月１９日（火）　午後２時から午後３時３０分まで
場　　所　　宮城県大河原合同庁舎　別館１階　第１会議室
出 席 者　　別紙出席者名簿のとおり

１　開会

【司　会】

本日はご多忙の中，「第４回大河原地域における高校のあり方検討会議」にご出席賜りまして大変ありがとうございます。

はじめに，宮城県教育委員会教育監兼教育次長の鈴木洋（すずきひろし）よりご挨拶を申し上げます。

２　あいさつ（鈴木教育監兼教育次長）

本日は，お忙しいところ，「第４回大河原地域における高校のあり方検討会議」に御出席いただきまして，誠にありがとうございます。

本年３月１７日に第１回の会議を開催しました当検討会議も，今回で４回目を迎えることになりました。毎回の会議におきましては，お忙しい中ご出席いただき，また，貴重なご意見を賜っておりますことに，改めまして心より感謝申し上げます。

第１回目の会議においては，皆様方から，教育への率直な思いや，新しい学校に期待することなどについて，様々なご意見をいただきました。また，５月に開催した第２回目の会議においては，農業・商業教育の今後の方向性や，新しい学科についてご議論いただいたところでございます。前回，第３回目の会議として山形県立村山産業高校の学校視察も行いました。

お蔭様をもちまして，地域のニーズを踏まえた，魅力ある新たな「職業教育拠点校」のイメージが徐々に見えてきつつございます。

第４回目の本日の会議では，「魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について」及び「再編統合に係る報告書（中間案）」を意見交換のテーマとしております。限られた時間ではございますが，忌憚のないご意見を賜りますよう，お願い申し上げ，開会のあいさつといたします。

本日はよろしくお願いいたします。

【司　会】
続きまして，構成員の方についてご紹介申し上げます。
出席者名簿をご覧いただきたいと思います。
はじめに,『大河原中学校の菊池　均（きくちひとし）校長』先生でございますが，今年度から大河原地区中学校長会の会長にご就任されました。この場を借りてご紹介させていただきます。
次に,『大河原商業高等学校同窓会長の大沼　俊臣（おおぬまとしみ）様』でございます。大沼様には，第２回の会議に会長の代理として，当時同窓会幹事長としてご出席をいただいておりましたが，５月２８日に開催されました同窓会の総会において，この度同窓会の会長にご就任されました。前回の第３回の視察のときから，会長としてご出席していただいておりますが改めてご紹介いたします。
また，本日は，大河原町商工会会長の斎藤　清一（さいとうせいいち）様の代理として副会長の本木　拓也（もときたくや）様にご出席いただいております。
どうぞよろしくお願いいたします。

【司　会】
それでは，続いて会議の内容に入りたいと思います。
ここからの進行につきましては，本会議の座長であります鈴木教育監兼教育次長にお願いいたします。

３　内容
【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）
それでは，しばらくの間，座長を務めさせていただきますので，進行にご協力をお願いします。
それでははじめに，次第にあります「（１）第２回会議における主な意見」と「（２）魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等」について，事務局より資料１と２に基づいて続けてご説明申し上げます。
それでは，お願いします。

【事務局】（西城教育企画室教育改革班長）
事務局の西城と申します。
まず資料１をお手元にご準備ください。こちらは５月２７日に開催いたしました第２回目のあり方検討会議において意見交換されました項目についての資料になります。上から順番に見てまいりたいと思います。まず「教育・学校づくりの視点等について」という項目でまとめさせていただいておりますが，こちらは総論的なものというところで１つ目，

「リーダーシップを取れる人材」であるとか，２つ目「地域だけではなく，日本全体に貢献できる魅力ある生徒をつくる」といったようなご意見をいただきました。また，「地域振興をどう行っていくかが課題であり，子どもたちが継続的に定着する地域社会の育成を考えていかなければならない」といったようなご意見も頂戴いたしました。

次に下の方の項目，第２回目の会議の意見交換のテーマとなっておりました「農業・商業教育の方向性について」になりますけれども，まず１つ目「どのようなものをつくれば売れるのか」ということについての学びや，「そのことを通して地域に根ざした農業と商業の連携が図られる」といったようなご意見を頂戴いたしました。また，その次ですが「農業と商業がうまく連携することによって，６次産業化という視点のなかでそれぞれの分野の将来につながっていく」というお話，さらに下の方に移りますが，「インターネットを利用したビジネスができる知識や人材，商品開発やマーケティングの力を持った人材の育成が必要になる」，それから，「海外を視野に入れた語学力や情報，デザイン等も勉強できる学校」というお話，それから１番下になりますが，「デザイン力やインターネットを活用した販売戦略が必要」だという話，「商品開発能力が必要」というご意見をいただきました。

裏面２ページ目，こちらは「新しい学科について」ということで，ご意見を頂戴した内容になっております。こちらにつきましては，具体的な科名を挙げていただいたものと，それからイメージとして挙げていただいた２つがございますが，まず具体的な科名といたしましては，上の方からご覧いただきますと「情報系の学科」，それから「情報デザイン系の学科」や「外国語系の学科」，「国際ビジネス学科」，それから資料の真ん中より下になりますが，「（地域）ブランド学科」といったようなご意見を頂戴したところです。

それからイメージ，どのような学科という点では，３番目のポツになりますが，「地域社会が発展できるような学科」，その下「地域の担い手となる生徒の育成ができるような学科」であるとか，資料の中程「柴田農林高校及び大河原商業高校の伝統とそれぞれの分野での強みを活かすような学科」であるとか「生徒の個々のニーズに合わせて対応できるような学科」，それから１番下になりますが「地域または世界に広げられるような情報力のある人間を育てられるような学科」といったようなご意見を頂戴したところです。

次に資料２の方に移りたいと思います。資料２をご準備ください。

こちらにつきましては，「魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について」というタイトルになっております。こちらは検討会議の開催要項のなかに意見交換の項目としてございました。

１ページ目につきましては，学校と地域の連携について高等学校の学習指導要領，それから第２期教育振興基本計画のなかで，どのような記載がなされているかというものをピックアップしたものになっております。学校と地域の連携の促進，そして地域とともにある学校づくりの推進ということでそのために必要な体制の整備，教職員の育成等について記載されているところです。

次に，２ページ目をご覧いただきたいと思います。こちら２ページ目以降につきまして

は，高校と地域連携の先進的な事例ということで５つほど事例を挙げさせていただいております。農業関係，それから商業関連科であること，それから地域振興につながっていることをポイントとしてこちらの方に記載しております。取組内容としては，主に店舗経営ですとか商品開発といったものが中心となっているところです。

まず２ページ目の事例になりますが，「富士市立高等学校」ということで静岡県富士市にある高校になります。学科構成として普通系，商業系，体育系という高校になっております。取組内容といたしましては，店舗経営，商品開発というところですが，こちらは地域の商店街の空き店舗を利用した常設の駄菓子屋さんを開店し運営している，さらに出張販売であるとか，小中学生の職場体験も受け入れているというところに特徴があります。１番下の方になりますが，高校生が中心市街地に来るきっかけになっている。また，卒業生がこの商店街に店舗を開店させる等，起業にもつながっているという取組になっております。

次に３ページ，事例の２になりますが，長崎県島原市にあります「長崎県立島原農業高等学校」，こちらは農業高校なのですが，こちらの取組といたしましては，店舗経営，商品開発はもちろんですが，住民交流であるとか，起業家育成であるとか，かなり本格的な地域連携の取組が展開されており，歴史も長い事例になっております。関係機関であるとか，地域産業と連携しての商品開発，それから乳牛の改良等の取組を行っているということで，特徴としては，課題研究や部活動など，学校教育全般を通じて地域と連携した教育活動が展開されているというところだと思います。結果として１番下の方にありますけれども地域就職率が高く，全国トップクラスの就農率を達成しているという状況になっております。

次に４ページ目をご覧ください。こちらが香川県坂出市にあります。「香川県立坂出商業高等学校」，商業科の学校になります。取組内容といたしましては，店舗運営，商品開発になるわけですけれども，特徴といたしましては，生徒一人一人から 1,000 円ずつ出資金を集めて模擬株式会社ということで店舗経営を実施しているというところにあります。こちらにつきましては，取組の成果のところになるのですが，地域全体で取組むことによって，地域のなかにおける学校の位置付けが，かなり明確化されておりまして，地域における学校の評価が上がったということで，求人であるとかインターンシップの受入企業も増加しているという効果が出ているということです。

それから５ページ目をご覧ください。こちらの事例４と事例５につきましては，昨年度実際に学校訪問させていただいて，いろいろ教えていただいた学校になります。５ページ目の「青森県立五所川原農林高等学校」，こちらは農業関係の高校になりますが，「農業高校がマネジメントする産官学民による健康なまちづくり」というものが取組内容として掲げられております。こちらは五所川原農林高校を拠点といたしまして，地元企業，生産者，大学，研究機関，行政機関が構成員となり，「五所川原６次産業化推進協議会」というものを設立，地域ブランドづくりを促進し，まちづくりにつなげているという取組みを展開しております。皆さまご存知かもしれませんが，「赤いりんご」のブランド化であるとか，「み

そドーナツ」であるとか，そのようなものを商品開発，販売をしているということで平成２７年１月には株式会社が設立され，地域産業の振興が図られているという事例になっております。

最後に６ページ目，こちらは大阪府にあります，「大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校」の事例になります。こちらについては，高校と大学，高大連携の事例ということで挙げさせていただきました。こちらの学校は，３つの商業高校の統合により平成２４年度に開設された高校ということですが，高大連携の具体的な中身というのが取組の状況のところにあります。高校３年間で一定の学習成績を修め，「英語」「情報」「会計」等の分野の資格をいくつか取得することによって，連携している大学へ校内選考により入学できるという「特別入学制度」を設けているというところに特徴があります。また，学習についても高大連携の７年間で網羅的に学ぶことができるという教育課程を編成しているという事例になっております。

これ以外にも第３回目で視察にまいりました「山形県立村山産業高等学校」ですが，資料上は記載しておりませんが，地域連携ということに関しましては，県や近隣の自治体，団体等から研究課題の要望であるとか，イベントへの参加要請が多くあるというお話を伺ってまいりました。出前講座や公開講座も数多く実施しているという話でした。ただ地域の企業であるとか，商店との連携についてはこれからの取組となるということで，われわれとしても引き続き連絡を取りながら，動向を見ていきたいと考えております。資料については以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。まず資料１でございますけれども，第２回の会議でご意見をいただきました「農業・商業教育の方向性について」，そして「新しい学科について」取りまとめたものでございます。その中で，キーワードを少し探してみますと「継続的に定着する地域社会の育成」，「地域に根ざした農業と商業の連携」ですとか，あるいは「６次産業化」，「商業のマーケティングや流通」，あるいは「インターネット」，「語学力や情報，デザイン等を勉強できる学校」，それから「大学や企業との連携」，「商品開発」等々が出ております。新しい学科につきましては，「情報系の学科」とか「情報デザイン系の学科」，「外国語系の学科や国際ビジネス学科」，それから「地域ブランド学科」など様々な名称の学科が出ているところでございます。

資料２につきましては，「魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等」に関して，他県の６つの学校の事例を中心に紹介させていただきました。「商品開発」，「店舗経営」，「模擬株式会社の運営」，「産官学民の連携」，「まちづくりの推進」，そして「高校と大学の連携」というような事例もございました。今回はやはり，これまで各高校でも努力はしているのですが，地域に根ざした高校のあり方というのが非常に重要視されているのではないかということでございます。そのような意味で，地域との連携による高校のあり方につきまし

て，まちづくりや地域振興等の視点から，新しくできる高校においてどのような取組が必要かご意見をいただきたいと思います。地域連携，地域に根ざした学校というところで何かお考え等ございますでしょうか。

では，大河原町商工会の本木副会長さんいかがでしょうか。

【大河原町商工会　本木拓也副会長】

大河原町商工会副会長の本木でございます。

私が考えている像といいますか，将来的なことを考えるとどうしてもインターネットであるとか，そのような連携は欠かせないだろうなと思っております。インターネットの素晴らしいところといいますか，いろいろな情報を取りにいけるというところが，非常に幅広く，簡単であるというところにあると思うのですが，むしろ情報があまりにも数が多過ぎて中身は濃くなっているでしょうけれども，それを経済的に考えてみると非常に安い情報がただでどんどん手に入ってくるという時代に，インターネットの効力といいますか，発信能力をこれから高めていかないと単なる宝の持ち腐れになってしまうのではないかとそのようなことを最近考えております。では情報発信をどのようにするかということですが，先ほども申し上げましたとおり，たくさんの情報が転がっているわけですから，それをどこに，どのような情報を拾いに行くかというときに，なかなか目的に辿りつけない。日常生活のなかで，例えばこの新しくできる高等学校が素晴らしいものをつくったというときに，高校だけにお任せするのではなくて，地域が一体となって，そのような取組を発信すべきと思っています。

もっと言うならば，ＩＯＴという言葉，皆さんもご存知だと思うのですが，すべてのものがインターネットにつながるという時代が目の前に迫ってきておりまして，そういう技術をどんどん入れて，そして特別な存在ではなく，大河原にはこういう情報発信があるんだというような大きな流れを，これから若干時間がありますのでこれから少しずつ考えていく必要があると思っています。その時が来てからでは遅いと思いますので，今のうちからわれわれがどこに向かっていくのかというところをきちんと目的を決めて，そして地域が一体となって取組みを応援するというのが今後の当然の姿ではないかと思っています。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。これから訪れるであろう社会の姿を見据えて，ＩＴとかＩＯＴとかそのような情報発信のような取組を足し増ししていくというようなお考えですね

続いて，藤原郡ＰＴＡ会長さんいかがでしょうか。

【柴田郡父母教師会連合会　藤原義信会長】

柴田郡父母教師会連合会会長の藤原です。本当に今，本木さんが言ったように，今イン

ターネットとかビジネス系で言えば，携帯電話など目の前に情報を得る機器があって，人の目に広告が出てくることは，最大の効果だと思います。今後ですが大河原町だけではなく，周辺の村田町であるとか，柴田町であるとかそのような特色あるところを混ぜていくようなかたちで，情報を発信していくのが，今後の方向ではないかと思っています。今の若い世代のために先ほども言ったようにインターネット，情報機器を使って，さらに今後のもっと若い人たちに情報を伝えていくために，広告，情報を発信すべきだと思います。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございます。近隣の町も含めて広く情報を発信していくことが必要だろうということでございます。

それでは柴田農林の後藤校長先生いかがでしょうか。

【柴田農林高校　後藤武徳校長】

柴田農林高校の後藤です。産業教育とか専門教育は，農業，工業，商業，家庭科など学習指導要領に基づいた既定の枠内で行われています。また，産業は急速に進歩し，新たな技術が次々と開発されているわけですが，最先端の技術を学ぶということになると一歩も二歩も遅れているのが現状であり，それを追い続けるのはなかなか難しいです。従来から専門教育に期待されているもの（職業観や勤労観）と作物の栽培技術や IT 機器の単なる操作技術の習得だけでない高校生の斬新なアイディアを具現化した新たな産業を絶えず見据えた職業教育の拠点校であればいいなあと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。生徒のアイディアを活かした教育というか，学校にしたいというお話でした。

それでは大河原商業の佐藤校長先生お願いします。

【大河原商業高校　佐藤充幸校長】

地域との連携のあり方ということですから，これはもう当然，地域のいろいろな資源をどんどん活用して連携して新しい学校づくりを進めていかなければならないということは，その通りだと思います。ただ，地域というとどの範囲までを実際考えているか，大河原町だけなのか，隣の町は，隣の市はどうなのか。あるいは宮城県全体を考えた場合，仙台市，仙台にある大学や企業との連携はどうなのか。これは実際，細かいこと，今後の検討課題になると思うのですが，その辺りが私は引っかかるというか，整理していかなければならないと思います。

細かいことを言えば，私の学校で商品開発を今までやってきたのは，梅をテーマにして

それこそ地域の農家から梅を買って，地域の会社で加工をしていただいて，ポテトチップスの場合は，カルビーという全国ブランドの会社と協力をして製品化までしたわけです。そうすると関わっていただいたのは，地域の農家，企業もそうですが，東京に本社のある大会社になります。あとは今，この前の梅祭りでもジェラート，梅味のアイスクリームを販売しました。あれは材料（原料）は地元の梅です。加工してくれたのも地元の会社です。しかし，いろいろ中身を検討してつくっていただいたのは名取市の会社です。

ですから，地域との連携というと，もう今の時代，本当の地元の町だけの会社とか団体だけでは無理なのではないか。やはり新しくできる学校は，それぞれの分野に応じていろいろな人たち，いろいろな機関との連携を考えていかなければ私は新しい学校づくりにはならないんじゃないかと。話は少し飛びますが，情報なり，デザインなり，いろいろなものを勉強するにしても，例えばその方面の優れた大学なり，専門学校なり，企業なりと連携をしなければうまくいかない。そうすると学校がある地域にそのような大学なり企業なりがあるのかというと仙台になってしまう。ですから地域の企業との連携はもちろんそうなのですが，もっと範囲を広げた団体との連携も考えていくとなるとあまり地域には拘らない方がいいんじゃないか，その辺りが問題ですね。

あとはやはり地域との連携と言えば地域の町ですね。大河原の町との連携も強めていかなければならないと思っております。学校のある所在地の町の振興発展につながるようなかたちで，将来地元に残って活躍する人材，町の職員となって活躍していくような地域振興，行政に携わってその行政のなかでいろいろな町づくりを考えていくような人材というようなことも必要ではないか。そういう意味では町からいろいろな協力，予算面など将来的には必要なのかなと。いろいろな例を見ているとそのような地元の町との連携もあるようですので，私はそのように考えます。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。限定的な連携だけではなくて，場合によっては広く東京あるいは県内を視野に入れた連携も内容によっては必要ではないか。もちろん地域の方々との連携は重要であるということでございました。

その他何かございますでしょうか。

【大河原商業高校　大沼俊臣同窓会長】

大河原商業高校の同窓会の大沼でございます。

この間も山形に見学に行き，バスの中でも皆さんとディスカッションをさせていただきました。宮城県の素晴らしい発明というのが光通信がトップで，世界的に有名な東北大学，それとは比較にならないのですが，前から山形の上山に，こんにゃく番所というのがあるんですね。そこは恐らくどこかの大学と連携して開発した商品がフルコースで並んでいるのですが，最初に甘エビの味がするこんにゃくがあって，フィルムの上に甘エビの刺身の

絵があって，食べると実際に甘エビの味がする，それからこんにゃくにもち米を入れた揚げ物もあってパリパリとしているんですが，それでこんにゃくの会席料理のフルコースが出るのです。ああいうものはどこかの大学と連携してひとつの企業がお金を出して開発したと思います。

ですから，このような高校教育のなかで，民間の資本を入れて開発をお願いしますという窓口ができたとして，その民間の壁が高校に入れていいものかどうかという部分の問題もありますし，そういう開発する学校だということで，素晴らしい学校だということで，いろいろな企業が悩んでうちの材料を売れる商品に変えてもらえないかというような学校づくりにしていけば，また自ずとそれはそういう企業との連携にもなると思いますし，地域的にも盛り上げるのではないかと思いますので，そのような商品開発を行い，その結果で販売を行い，利益がでる企業が持ち上がってくるといいなと私は考えております。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。こんにゃくをつかっての商品開発ということで，その連携の一つのあり方をお示しいただきました。その他にございますでしょうか。

【大河原町　伊勢敏町長】

今，与えられたテーマだと地域連携，まちづくり，地域振興このような観点で議論をしろということですが，私は何回も言うわけですが地域の価値を高めて，地域の信頼を高くすることが産業振興，地域振興の基本だと思っておりまして，そのような志を持った生徒がたくさん出てくることが極めて大事だと思っております。

いろいろと商品開発や情報，ＩＴとか出ましたけれども，また語学も出ましたけれども，それはいわば技術の部分であります。高校生１５歳～１８歳までに技術を中心とした，本当は職業高校ですから技術も大事なのですが，１番大事なのは地域に対する愛情といいますか，志といいますかそのようなものを持っていただくためにもっと幅広い教養的なものをしっかりとしていかないと長続きしないと思います。ノウハウにつきましては，就職してからのＯＪＴなどで十分発展することができますから，ある程度知識があれば伸びると思いますので，そのような教養的な部分とノウハウの部分を大事にして，そのようなものが総合的に地域の発展，地域の信頼といいますか関心を高めるような，そういった学校づくりをしていただければ，大変ありがたいというように思っております。以上でございます。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。技術だけではなく，地域に愛着を持った，そして教養を身につけた人材を輩出する学校であってほしいということでございました。その他ございます

でしょうか。

【大河原中学校　菊池均校長】

大河原地区の校長会の会長を務めております大河原中学校の校長の菊池と申します。

私は，中学校の立場で地域，地元の高等学校さんの方に期待したい今後の教育の一体化について若干私の見解を述べさせていただきます。中学校もそうですが，今町長さんもおっしゃっていましたが，地域を愛するとかもう一歩突っ込んで，地域を愛するが故に地域にいかに貢献できるか，地域貢献の立場で高校の皆さんに，いろいろな学習に取り組んでほしい。例えば中学校との連携として高等学校の生徒たちが，地域の小学校，中学校に対してどのような貢献ができるかという観点からいうと，例えば現在まだ公立高校は行っていませんが，先日うちの方の中学２年生が職場体験学習ということで，町内に出て行ったときにマナーですね，礼儀とかそのようなところの指導をする際に，仙台市のある私学の高等学校の中でビジネス科というのがあってそこの子どもたちがですね，３年生の子どもたちが中学校に行って，自分たちが学んだマナーを企業でどのようなところが求められているかというところを，指導できる，指導してみたいという希望があって，本校ではじゃあ中学校の方に来ていかがですか，やってみませんかということで，向こうの校長先生にお願いしたら，ＯＫということでやっていただきました。高校３年生くらいになると本当大人と同じ，それに近いくらいの指導力があったりまたは実践力があったりということで，中学校の子どもたちもお兄さん，お姉さんに直接教わる，学ぶという観点から，大人から学ぶ以上に非常に有効な学習が行われました。そういったときに，地元の高校という関係で，中学校もしくは小学校の方に実際に高校生の子どもたちが足を運んで講義をしていただくようなこともあればいいのかなと，専門の分野ですね，そのようなものがあればいいのかなそれがまた連携につながると思っています。

それから，先ほどの先進校の取組などを見させていただいて，やはり座学とか学校で理論的なものを勉強するのと併せて，子どもたち，高校生が地域に出て，例えば地域に店舗を持つとか，学校独自でブランドをつくって，それを地域で販売するとかそのような実学的な取組がなされています。このようなところが地域の連携になるとは言え，今は柴農さんだとこの前も私買いましたけれども，農作物の販売などしていただいているのですが，それをさらに今やっているＩＴとかマーケティングとか，そのようなノウハウを駆使して店舗を起こすとか，あるいは企業を起こすとか要するに企業家精神，アントレプレナーシップですか，そういった観点から高校で勉強していただいて，実業高校ということであればやっていただければ大変いいなと思っております。以上まとまりのない話になりましたが，中学校からの立場で話をさせていただきました。以上でございます。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございます。地域に根ざすということは地域貢献できる人材であろうという

ことで，マナーとか礼儀とか規範意識をしっかり身につけて，地域に愛される人材になるということと，座学だけではなく地域に出て学ぶこともたくさんあるのではないかというお話でございました。その他ありますでしょうか。

【大河原町　齋一志教育長】

私は専門性と一般性という２点からお話をしたいと思います。まず，１点目専門性ということですが，やはり様々な学習をする高校がありますが，より専門的により質の高い学習をさせていかなければならないだろう。つまり子どもたちは，学校を卒業して社会に出て行くわけですけれども，日本全体を考えたときに単なる大河原地域ということだけではなく，開発した商品は世界的にどのような価値があるのかというときに，その開発した品物の価値が問われてくるのではないか，そのようなときに例えば柴田農林高校で仙台吉野という桜を育てておりました。これは誰にも負けない，柴田農林でしかできない専門的な苗の開発です。それは桜の苗に例えれば仙台吉野ということになりますが，野菜だってそういったものを開発できるのではないかというふうに思います。そのためには，専門性を深める学科が必要になるだろう。高大連携というお話もありましたけれども，これは可能かどうかわからないのですが，仙台高等専門学校がございますが，いわゆる高専ですか，高専は中学校を卒業してから入る学校でございますが，高専の分室を新しい学校の中につくることはできないか。つまり高等学校とより専門性のある高等専門学校を同居させることによって，学びの質を高めて，高い品質のものをつくることができないか。それが１点でございます。

もう１点は一般性ということで，先ほどから言われております地域貢献ということでございますが，やはり町長も申し上げましたとおり，地域の価値を高めるということは，志を持った生徒を育てていかなければならない。そうするとこの学校を卒業して自分は地域のために，一生懸命尽くすんだという人間を育てるために，地域の人材をいかにして学校のなかに取り込むのか。あるいは地域の人材というよりは，地域のなかで暮らす人々を学校のなかにどう取り込むのか，より一般的に例えばこの高校に入れば，新しい単位が取れて，新しい資格が取れるということで，それが高齢者も含めたかたちで，一般的に広まりを見せることができるのではないかと思うそのようなことで，専門性と一般性の両方を兼ね備えた学校が私としては，求められるのかなと思っております。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。高等専門学校の分室とか，様々なアイディアを出していただきました。志を持った生徒の育成，人材の育成をして，地域の人材をいかにこの学校に取り込むかというご意見をいただきました。その他ございますでしょうか。

【柴田農林高校　菅野同窓会長】

地域振興，地域とのあり方ということで若干，小さな発想になるかも知れませんが，というのは私は，この地域で生きております。そして，柴田農林高等学校に長いこと勤務しておりました。最後に学校長として柴田農林高校を退職したので，そのなかで高校時代，外にいたときもいずれこの学校改革は来るなというところで，発想したところがあります。グローバル化社会，それからインターネットこれはもうツールなんですね教育の。完全にどこに行ってもそれはもう，今の若い生徒とか，若い人たちはもうコンピュータなんかいらない，極端な話スマートフォンがあればいい，動くんですよね。それはそれとして新しい学校はどこを目指すか，先ほどの地域振興含めて，この地域の継続的な発展，継続という言葉は私すごく大事だと思っております。すべてが大都市に吸収されたのでは，今から２０年後難しい。そんななかで，われわれ教育したときに考えたのは，教育は２０年先の教育を子どもにしなければならないと少しは思っていたのですが，そうすると具体的にどうかというと今，平成で商業と農業との統合，そしてコラボをするというところでございますが，私が１番大切なのは，商業であろうと農業であろうとまず基本的には学力なんです。先日あるお店に行って，農産物が売っていました。全然これはどういうふうにつくられて，どういうふうに流通しているかわからない。ただそこにあるから売っている。いろいろ考え方があってそれはそれでいいのですが，新しい学校をつくればそれぞれの専門分野で基礎基本をしっかりと教えて，地域社会に興味を持つような子どもを踏まえて，そして興味関心という言葉がすごく楽で，実際は難しいのですが，３年間の時間というのは非常に少ないのですが，それのベースのベースをきちんとしたものを教えていただいて，発想法とか発信法とかできればいいなあというようなかたちで進め方を考えて，あとはその段階で高等教育をうける生徒ともいる，海外に行く生徒もいるし，先進地に行く生徒もいるだろう私をそれでいいと思うので，まず基本的なベース，そして６次産業に向かった教育というのが大事ではないかと私は考えておりました。

言いたいことはたくさんあるのですが，もう１点は故郷の子どもたち，私もう何十年と大河原の子どもたちを見てきましたけれども，故郷の子どもたち１番欠けていたと感じたことが，故郷の魅力，故郷の宝に小さくても興味関心を持つということ。非常に残念な思いで退職した次第なんですが，一生懸命やったのですが，なかなかできなかった。だが若干少しずつ，なんと言うんですかね，そういうところにも目を向ける生徒，少しは卒業生のなかにもいるようでございますのでそこで少し考えて，それはそれで教育は先ほど言ったように基礎基本はしっかり教えて，そしてそこのベースを持って次の段階に入ってもらえば，私は新しい学校としての魅力は出てくるんじゃないのかなと思っています。失礼します。

【大河原町　齋一志教育長】

関連で，今，菅野先生が地域のことを理解するような生徒がほしいというご趣旨だと私

は受け取りました。これはですね，国際化で国際的に活躍する人が増えると思いますが，非常に大事なのは，やはり国際ということは地域ではなく，日本ですからね。日本の文化を知らないで，外国に行っても相手にされません。最近わかったのですが，商社などの方が外国に住む場合，半年くらい日本文化の教育をするということが最近わかりまして，私の体験を申しますと，海外に行ったときに何十カ国のなかに日本人１人で，そこで日本の歌を歌える，たまたま民謡をやっていますから，何とかなったのですが，地域のこと，それから日本のこと，それをしっかりと知っていないと国際人としては通用しないというように思いますので，そういうことで地域理解をしっかりとできるような生徒を育成していただきたいと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。菅野先生からは学力の基礎基本しっかりと身につけさせた上で専門性を目指すという話と，町長さんがお話になられました地域を知り，日本を愛し理解する。大河原小学校の４年生全員がさんさしぐれを歌えるという話も聞いたことがありますけれども，そのように日本の文化をしっかりと身につけた人材に育ってほしいということでございます。

いろいろとまだまだお話をお伺いしたいのですが，時間も過ぎておりまして，次の中間案について説明をしたあとに，お一人お一人ご意見をいただきたいと思います。

それでは事務局，中間案について説明をお願いします。

【事務局】（西城教育企画室教育改革班長）

資料３をご覧ください。当あり方検討会議は最終的に検討内容を報告書としてまとめることを想定しておりますけれども，こちら資料３につきましては，これまでの検討内容を取りまとめまして報告書の中核となる部分を，中間まとめ（案）として示させていただいております。全体的な構成といたしましては，最初に職業拠点校を設置するにあたっての目的，それから今まで検討してまいりました各項目ごとに取りまとめを行っております。

時間の都合もありますので，まず目的のところをご覧いただきたいと思います。１ページの上ですが，○が３つございます。まず１つ目「専門的な知識や技術を持ち，地域産業を担う人材の育成」，それから「６次産業化を軸とした学科間連携による発展的な専門教育の展開」，それから３つ目「地域産業や地域社会との連携・交流の充実及び地域ブランドの創出等を通した地域振興への貢献」ということでまとめさせていただいております。以下，各意見交換の項目ごとに，まず「今後の農業教育・商業教育について」というところで１ページ目には農業教育で出されました意見，記載のとおりまとめさせていただいております。

２ページ目，商業教育についてどのような意見が出されたか上の方に４点，まとめさせていただいております。それから③「農業・商業共通」というところで，本日も話に出て

まいりましたが，そちら６点ほどにまとめさせていただいております。それから３ページ目，「新しい学校に期待すること」ということで，これは１回目の会議の意見交換のときにいただいたものを取りまとめておりますけれども，以下記載のとおりに６点，「時代のリーダーシップ」であるとか，「地域に貢献できる人」等というかたちでまとめさせていただいております。それから３ページ下の（３）魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について，これは本日いただきました意見を取りまとめて記載させていただきたいということで，空欄の状態になっております。４ページ目，「新しい学科について」ということで本日も資料１のなかで説明をさせていただいたところですが，こちらこのようなかたちで，取りまとめさせていただきました。

新しい学科として図の方を見ていただきますと，「デザイン系学科」ということでとりまとめさせていただいております。４ページ新学科のイメージを別紙のとおりとしたという記載がございますが，まずその理由として，①６次産業化をキーワードとして，農業，商業との連携が幅広く考えられること，②子どもたちにとって，学校選択の幅が広がること（南部地区にない学科），それから③学校全体として，再編が目指す「地域ブランドの確立を通した地域振興への貢献」に沿うことという３点を挙げさせていただいております。図の方をご覧いただきたいのですが，農業・商業があってそれをつなぐ学科としてのデザイン系学科というところで，６次産業化，地域ブランドの確立というのをキーワードとして挙げさせていただいておりますけれども，地域を担う人材の育成，それを通して地域振興への貢献ということで考えております。

デザイン系学科の説明としては，資料中程の枠で囲っておりますのでご覧いただきたいと思います。学科概要といたしましては，まずデザインに関する専門的技術者を育成，それから農業・商業学科との連携を通してものづくりに貢献できる人材の育成，それから地域の魅力を発掘してブランドを創出し，発信できる人材を育成ということでまとめております。

学科内容といたしましては，宣伝広告等印刷物に関するグラフィックデザイン及びＷｅｂデザイン，それから商品企画開発やパッケージデザイン，地域デザイン・プロデュース等ということを考えております。

将来の活躍分野，イメージですけれども，グラフィックデザイナー，Ｗｅｂデザイナー，それから企業の商品企画開発，企業や自治体（行政）の企画広報等といったところを想定しております。

枠外になりますけれども，６次産業化など地域ブランドの創出等地域振興関連については，３学科共通して目指すものとし，さらに３学科連携した取組を通して地域の魅力の向上を図りたい，それから語学力，コミュニケーション能力についてはこれまでの話し合いのなかでも出てまいりましたけれども，こちらにつきましては，学校全体で取組むこととして，１番下の※印になりますけれども，学科名称や学科内容等詳細については，各学科の教員代表及び県教委で構成する「統合校教育基本構想検討会議」で別途検討するとして

おります。こちらのデザイン系学科につきましては，デザインを専門的に学ぶ学科といたしましては県内初ということで挙げさせていただいております。資料３については以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。これまでご議論いただいた内容を踏まえてですね，新しい学科ということでデザイン系学科を提案させていただきたいということでした。農業系と商業系をつなぎ，そして発展する，そういう意味でのデザイン系学科という提案でございますけれども，それでは，お一人３分ずつ資料３についてどこからでも結構ですのでご意見をいただきたいと思います。今日は大河原教育事務所の鈴木所長から時計回りにお一人３分くらいでご意見をよろしくお願いします。

【大河原教育事務所　鈴木一史所長】

今，新しい学科ということで提案いただいた内容を見させていただきましたが，今まで議論したものはこの中に入っていると感じました。県内初の学科ということもありますので，今後，十分検討なさるとは思いますが，結局，何年か後にどうなっているのかというイメージをやはりきちっと出していかないと，デザイン系学科ということばは，この場では問題はないと思うんですが，じゃあどうなるんだろうかということをはっきりと出さないとダメなんじゃないかと先日，山形に行った時も感じたところですので，ぜひ検討いただければと思います。

それからもう一つお願いしたいのは，新しい学校を作るときに先ほどのお話とも関連するんですが，地域への発信ということで考えますと常にというのは難しいかもしれませんが，地域の方々がこの新しい学校ができた時に「こういうことをやっているんだな」ということが見えるような場所を作っていただけるとありがたいなと思います。これについては先ほども話が出ましたけれども，例えば空き店舗を利用した常設の店のようなものを作るというのも一つの方法ですし，常に地域の方がやっぱりうちの地域の学校なんだと思わないと長続きするのは難しいと思っていますので，その辺も考えながら進めていただけるとありがたいと思います。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それでは本木副会長お願いします。

【大河原商工会　本木拓也副会長】

新しい学科についてというところの中で，情報系の学科というものが一番最初に出てきますけれども，中間案の中にぜひこの中に盛り込んでいただきたいと思います。これまでもお話をさせていただいたようにＩｏＴというものが身近な存在になってきている中で，

今どういう勉強をするかということになると，私達の事業所の中を全てＩＴ化するという取り組みをしているのですが，電話が来ても自分のところに関係がなければ，他の課に電話してくださいということになるんですが，場合によっては３つも４つもたらいまわしにされるということが日常的に行われているんですけれども，何かあってグループで取り組みをする際にかかってきた電話を切ることなく関係者のところに回すという，そういうものを勉強するということも授業で取り入れてほしいと思います。今までの長年あった電話の考え方がまるっきり変わってきているという状況にありますのでぜひその辺も考えていただきたいなと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それでは柴田郡父母教師会連合会の藤原会長お願いします。

【柴田郡父母教師会連合会　藤原義信会長】

新しい学科としてデザイン系学科と説明がありましたけれども，確かにあらゆるものにデザインというものあって，いろいろな見え方，やり方がたくさんあると思います。それで子どもたちに伝える時にどのようなデザインなのか明確に伝えれば，今の子どもたちにとってはWebデザイナーというのは心惹かれる言葉だと思います。先を行くような学校という言葉も聞こえていますので，良い方向に進めばなと思います。商業と農業は同じような方向で今後もやっていくとは思いますが，新しい学科と商業，農業が一緒になることで新たな学校のスタイルが確立できると思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。大河原中学校の菊池校長お願いします。

【大河原中学校　菊池均校長】

新しい学科がデザイン系の学科ということでご説明をいただきました。学科概要，学科内容，将来の活躍分野を示した前のページに「情報系の学科」，「情報デザイン系の学科」という文言があります。情報という文言をこのデザイン系学科の中に入れないことに何か意図があるのかなと。先ほど農業系の学科，商業系の学科でもＩＴとかインターネットとか十分網羅されているのであえて入れなかったのか，その辺で何か意図があれば確認させていただきたい。それから，鈴木所長もおっしゃっていましたが，５年後，１０年後，１５年後の将来を見通した産業構造を考えたところに，やはりこれからはＩＴもそうですけれども今キーワードになっているのが人工知能の問題がございますよね。ロボット，機械もそうですが，人工知能が急速に発達している，それによって今まで人がやっていたことについても人工知能，ロボットがどんどん切り替わっていくという時代が近い将来やってくるということを考える場合，やはり情報系をどのように取り込んでいくのかというとこ

ろが必要かなと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ネーミングで情報系の文言が入れば分かりやすいという意見があったんですが，事務局どうですか？

【事務局】（伊藤教育企画室長）

情報化，ＩＣＴの部分については６次産業化とともに全体にまたがるキーワードであると認識しております。情報の部分を今回新しくできる学科のみに負わせるのではなく，学校全体３学科それぞれのニーズから取り組んでいくことを今の段階ではイメージしております。商業については既に情報がございますし，農業もこれからの農業を考えますともっともっとやっていかなくてはならないという認識でいますので３学科全てで情報を扱っていくべきと考えています。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

これからの農業教育，商業教育も含めて全てでＩＣＴを取り入れていくというイメージですね。それでは伊勢町長お願いします。

【大河原町　伊勢敏町長】

将来の活躍分野でグラフィックデザイナー，Web デザイナーとありますが，これが企業の方でどれだけニーズがあるのか調査はされたのか，こういうある程度高度な技術を身に付けるとこの地域にとどまってもらえないような人材ができるのではないかと思われまして，地方創生という地域の最大の狙いですけれどもそこが損なわれるのではないかという気がしまして，地元の企業でどれぐらいのニーズがあるのかしっかりと把握された上でこういったことを判断していただきたいと思います。また一番最後の企業や自治体の企画広報というよりも産業振興に関わる部門の人材を育成することも念頭に置いたカリキュラムを組んでいただければと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

グラフィックデザインとか Web デザインとか企業からのニーズはどの程度でしょうか？

【事務局】（伊藤教育企画室長）

今，インターネットを通じた商売が店頭販売を上回るような伸び率を示している状況で，ホームページを通じたデザインの訴求というものが大事になってきます。具体的に県南地域であるいは宮城県全体でこういった人材に対するニーズはどれぐらいなのか数量的には明確になっているものはないんですが，在宅でもどの地域でもデザインに関われるような

仕事の一つではないかなと思っております。できればデザインの技術を身に付けてかつ地元でグローバルな，世界に通用するようなデザインの仕事ができる生徒を一人でも多く育てられれば良いなと思っております。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました，それでは齋教育長お願いします。

【大河原町教育委員会　齋一志教育長】

私も町長と同じことを考えていまして，この新しい学科の学習をして地域にどれだけの子が残るのか，結局，地域を忘れてしまうのではないかなと。じゃあどうすれば良いかなと思った時に私としては地域学科のような学科を専門に地域に貢献するあるいは地域と連携するそういうものを専門に学ぶ学科が必要になってくる。そうしなければこういった勉強をした場合は大河原を出て行ってしまうような人間になってしまうのではないか，そんな感じがしてならないんですが。以上でございます。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それでは品川校長お願いします。

【金ヶ瀬中学校　品川信一校長】

６次産業化あるいは地域ブランドの確立ということで，関係機関あるいは地域産業との連携を学習できるのかなと中学生が見た時に非常に魅力ある高校になっていくのかなと思いました。ただ，１０年後，２０年後を考えた時に先ほど菊池校長先生からもありましたように例えば２０３０年には現在の職業の半分くらいはなくなっているかもしれない，あるいはＴＰＰが実施されたときに日本の農業がどのように変わっていくのかということも踏まえながら，どのような学科が今後の社会の中でニーズがあるのかを踏まえながら学科を決定していくことが必要だと個人的には思います。ただ，物を作ってそれを販売してそしてかつ生計を維持できる，なおインターネットを通して世界で商売できる，そんなことが高校で学習できるとしたら中学生の興味を引くのではないかなと思います。以上です。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それでは柴田農林高校の我妻ＰＴＡ会長お願いします。

【柴田農林高校　我妻亨ＰＴＡ会長】

どの学科も学んだ上でどれだけの方が専門的な職に就くのかなと考えた時に，やはりせっかく３年間学んだのに専門的な部分を生かす仕事に就けないのではどうなのかなと思います。ですから生徒たちが興味を持って，そして農業に関しては先ほど品川校長先生から

もありましたが，ＴＰＰの問題もあってますます若い人たちの後継者が少なくなっていく中で，私は逆にチャンスだと思います。今までの農業の観点から考えていてはまずいなと，新たな発想で柔らかい頭の子どもたちがどのようにこれからの農業をしていけば，簡単に言えば儲かるのか，生計を立てられるのか，そういうところも含めてしっかり勉強できるような学校を作っていければ良いなと思います。そして，できればここから全国に発信するような学校であれば良いのではないかなと思います。生徒たちがどこに就職しようが，それは子どもの考えですから良いのであって，日本全国に散って行ってもかまわないと思いますが，ここで学んだことで日本の経済がますます発展すればそれで結構なんじゃないかなと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それでは大河原商業高校の相原ＰＴＡ会長お願いします。

【大河原商業高校　相原ＰＴＡ会長】

今，皆さんの意見をいろいろ聞いていまして，私は先行と言いますか，頭でっかちのかたちで進んで行ってるようなイメージでとってしまったんですが，こういった学科を作れば生徒たちに本当にそういうニーズがあるのかなと。デザイン系学科という新しい学科を作りますが，今度は子どもが少なくなれば子どもが学校を選ぶ時代になります。県内１個しかない学科だからということですが，本当に地元の子どもたちがデザイン系学科で「そこで学びたい」となるような，そういうニーズを的確に取り入れているのかなと。簡単なアンケートでも構いませんので，この地域の新しい学科と言ったらどういったものを学びたいですか，というもので構わないと思うんですけれども，その中で１個でも我々が話し合いをしてきて出した結果の学科に興味がある生徒がいればいいんですが，全然いないのでは，せっかく地域が目指す学校を作っても今は学区制がないので大河原だから大河原の子どもが行っているわけではなくて，仙台とか遠くから子どもが来て仙台に帰るという現象も出て来るのかなと思いました。

発想としてはこういう学科を作れば将来的に子どもたちが興味を示すということも大事ですが，逆に子どもたちのニーズを少し反映していければなと，そのようなかたちの中でデザイン系学科，ネーミングの問題なり中身の問題なりが固まってくれば，子どもたちも興味を持ってもらえるようになるし，親からしてもデザイン科に行って何を勉強するんだということにもならないように情報発信してコミュニケーションを高めていかないと，私たちはこういった会議に出席しているのでこういった中身でこうだと分かるんですが，うちのじいちゃんなんかに言わせたらと，「デザイン学科って何だ，あんなところに行くのか」っていう感じなので，まあ会議がまとまらなくなるのでもう少しニーズを取り入れて，より良い学科が出来上がればなと思います。ＴＰＰの話もありましたが，海外から入って来るだけではなく，この新しい学科を通じて逆に日本から中国などに米とかを輸出するよう

な気構えで新しい学科を考えていただければと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

子どもたちのニーズについて何か事務局からありますか。

【事務局】（伊藤教育企画室長）

今現在の子どもたちに対して直接アンケートを行うことは今のところは考えていないんですが，全国的に見て，デザイン系の学科は各県いくつかありまして，宮城県では宮城野高校１校しかありませんでした。宮城野高校ではどちらかというと本格的な美術を学ぶような学校ということで，デザインを学ぶ学科としては今回初めてですので，ニーズとしては宮城県内でもあるのかなと思います。ただ，学校のあり方と言いますか，今後，新しい学校を作る上では，学校の名前をどうするかなど皆様にお聞きするべき内容，項目については資格も含めて今後検討していきたいと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

それでは柴田農林高校の菅野同窓会長お願いします。

【柴田農林高校　菅野信同窓会長】

新しい学科の例としてデザイン系学科ということで，パッと見た時に非常に良いネーミングだと思いました。頭に何か付くのかな，デザイン系と一言で言っても幅広いと思うんですね。ファッション系とかパッケージとかいろいろあるんですが，地域のデザイン，商品のデザイン，商品システムのデザイン，いろいろと発信する方法もデザインだと思うんですね。ただ，中学生相手に何のデザインをやるのかというのを伝えるのが問題だと思うんですね。一番手っ取り早いのがクリエイティブデザインだと思うんです，ＨＰとか，今どきですからね。そういうものはそれで良いと思うんです。

私はこのデザイン系学科も基礎基本もどちらもできる子を育てていただければ幅広く使えるなと感じておりますので，基礎基本もきちっとやることが必要だと思います。第一次産業って時間がかかるんですよね。何を作るにも時間がかかるんですよ。大変恐縮ですが，他の産業は自然と関係ございませんのでダメだったら次の日に新しいものができる。農業や水産や林業はそうはいきません。そのためにはきちんと学んでいかなければならず，教育にも相当な時間がかかるという意味で言いました。新しい学校ではそれも大事かなと思います。あともう一点だけ，新しい学校はいろいろな形で世界を意識していくだろうと思いますが，足元をきちっと見て基本的な教育も大事にしていっていただければ間違いなく進むんじゃないかなと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）
ありがとうございました。それでは大河原商業の大沼同窓会長お願いします。

【大河原商業高校　大沼俊臣同窓会長】
大河原商業の佐藤校長も言っていましたが，基本的な教育，レベルの高いＩＴ，それから英語教育，プラスやはりＴＰＰに強い人間を作る，それは前も今治の話をしましたけれども，みんなが同じものを作っても余っちゃう，輸入ばっかりしているんじゃなくてわが国でも売れるものを作ろうという勉強もできるのがこの学校だと思います。それからデザインの方の話ですけれども，この間テレビで見まして，子どもさんが一人いる主婦がお家で仕事をしている，それは何かというとデザイン系なんですね。自分が好きな時間に仕事ができる，そういう子育てもちゃんとやっている。デザイン系でお家で仕事ができる，そういう子どもたちを育てるのもこれから大事なのかなと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）
ありがとうございました。それでは大河原商業の佐藤校長お願いします。

【大河原商業高校　佐藤充幸校長】
この学科ではデザインの専門家を養成するということではなくて，要するにデザインの知識や技術を備えた人材，そういう観点からすると，今まさに企業で必要とされる人材であると思います。大河原商業で情報システム科とかＯＡ会計科とかありますけれども，ＯＡ会計科で日商２級まで目指させると高校生としたらかなり上の方なんですね。国家資格ですから。だからと言って税理士や公認会計士を目指せるように養成するのかと言ったら違うんですね。事務系で採用される場合，日商簿記やワープロの１級などのビジネスで必要とされる資格なり能力なりを一つでも多く身に付けさせて，つまり付加価値のあるビジネスマンを養成したいと思います。もちろん専門の勉強を土台に専門学校や大学に行って税理士や公認会計士を目指すのも当然良いと思います。しかし，学校として，高校として，専門高校として目指すのはその道の専門家だけではなくて，デザインと言っても幅広いので，資料にあるようなグラフィックデザイン，Web，要するにインターネットを使ってホームページでいろいろな商品を販売する場合の広告デザインも必要になってきますね。テレビでも広告を作りますが，ＣＧ，コンピューターグラフィックでもいろいろなデザインをしながら商品のパッケージを作っていくわけですね。だからそういう知識を持った人材は地元でも求められているんです。大丈夫です，地元に残りますから。大商を卒業した子は半分以上は残っています。地元に貢献していますから，地元の企業から，大商から欲しいと毎日，金融機関からは求人が来ています。デパートからも来ています。ですから我々送り出す側としては少しでもグレードの高い人材にして送り出す。地元で働きたい，仙台で働きたい，東京で働きたいと希望はありますが，仙台で働いても東京で働いてもグレード

を高めないと競争に勝てない。子どもたちに競争に勝たせたい，競争に負けないくらいのものを身に付けさせなければ私はダメだと思う。だからこういうデザインは幅広いことを勉強するものだと思いますので，これは良いんじゃないかなと思います。中身は今後詰めていく必要があると思いますが，宮城野高校は美術科で違います。新しい学科の方がものすごく勉強できます。あとはさっき言ったように，高校でやれないことは専門学校や大学と連携してやるしかない。それをやるためには県は施設にきちっと金をかけて，あとは地元の大河原町からもご支援をいただいて町のためにもやっていければと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

それでは後藤校長お願いします。

【柴田農林高校　後藤武徳校長】

今お話があったように入口と出口を明確にするのは大事だと思います。入口については特にデザイン系学科，あるいは農業も商業もですけれども，どのような形でどういう生徒をどういう方面にどういうノウハウを身に付けさせるかということをきちっと説明できなければならないと思います。ただ，どうしても職業とか産業の高校が３年間の高校生活で全てそこで就職するということはありえない話なので，できれば先ほど教育長さんからもお話があったことに付け加えるとですね，宮城大学にはフードあるいはファームの学部があって，これは宮農短大から宮城大学になったわけですが，また商業の分野で言えばビジネスマンを作る事業構想の学部があるわけですが，そういうところにつながるような出口，あるいは学生とコラボして地域のことを考えられるようにすると，より地域ブランドの確立に近づくだろうなと思います。先ほども話しましたが，ただ操作をすることに関してはスマホでもコンピュータでも生徒はだいぶできるようになっていますが，やっぱり考える，工夫する，あるいは共同で行うということに関しては，反対にノウハウは落ちているように感じます。地域に自ら取材に行って，いろいろなものを仕入れてくる，あるいは農業や商業の分野でやったことをデザインと一緒に考える，そのような共同する場，学校が一体になって地域のブランドを確立するということには，現段階ではデザイン系の学科がすごく合うように思います。それが学校として地域，大学等と連携していけば地域振興への貢献というものにもつながるのではないかと思います。なかなかこういうところがうまくいかないのは，やはり各学科で何をやっているのかが良く分からない，出先がどこなのかが明確ではないということがあるので，そういう安心感が保護者にも与えられるような学校の体制，学科づくりが大切なんだと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。それではご出席の皆様全員からご意見をいただきましたけれども，これだけは言いたいな，付け加えたいという方はいらっしゃいますか。

（伊勢町長挙手）

それでは伊勢町長お願いします。

【大河原町　伊勢敏町長】

繰り返しになりますが，地域の価値とか信頼を高めることで，その場合，思い出すのが「ブランドは広告でつくれないという本」があるんですが，デザインは広告の主なものでして，デザインだけでは産業振興にならないという思いがあります。例えば農産物ははっきり言って味が勝負ですので，そういうところも含めまして地域全体の価値を高めるようなそういう学科にしていただければと思います。

【座　長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。質の高いもの，教育内容も商品も全てそういうものを目指してほしいということでございました。その他にございますか。よろしいでしょうか。それでは予定時刻になりましたので，本日，皆様から頂きましたご意見につきましては，次回の会議で報告書という形でご提案させていただきます。それでは「４その他」に入ります。何かございますか。よろしいでしょうか，それでは本日の会議を終了させていただきます。進行にご協力をいただきまして本当にありがとうございました。これで議事を終わります。

【司　会】

ありがとうございました，本日は限られた時間の中で貴重なご意見を賜りました。ありがとうございました。次回，第５回目に関しては９月中旬ころを予定しておりますが，改めて日程を調整させていただきまして，ご連絡を差し上げたいと思います。それでは以上をもちまして第４回大河原地域における高校のあり方検討会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。